

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
六美地区

平成25年5月

栃木県壬生町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	道路冠水面積	m2	49,400	23,300	23,300	確定	○	あり	23,300	H24年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	冠水箇所の道路整備により、道路冠水が解消された。
指標2	交通安全対策満足度	%	35	60	63	確定	○	あり	86	H25年3月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	通過交通の多い町道二級59号の拡幅歩道整備等により、交通安全の向上が図られた。
指標3	児童館利用者数	人	16,000	17,600	10,000	確定	×	あり	14,587	H25年3月	×	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	当該指標の母体数となる児童数が少子高齢化により社会的に減少している。
						見込み	●	なし					

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	道路冠水解消により円滑かつ安全な通行が可能となった歩行者自転車数	人/昼間	0	/	102	確定	/	/	102	H24年4月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路排水施設整備により該当箇所の冠水が解消され、歩行者や自転車が円滑かつ安全に通行できるようになった。
その他の数値指標2	災害時における町営ひばりヶ丘住宅集会所の避難受入れ可能人数	人	0	/	24	確定	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	町営ひばりヶ丘住宅の集会所整備により、災害時に一時避難所としても利用できるようになった。
						見込み	●	なし					

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	・道路の機能維持	・道路の維持管理	・整備した道路の機能及び景観が保たれた。	・道路管理者による維持管理のみではなく、地域による道路愛護作業等を通じて地域の連帯感をさらに培う必要がある。
	・さらなる活発な自治会活動	・住民説明会や自治会役員との調整会議	・事業実施者である町と地域住民が整備内容を再確認し、残事業のさらなる推進が必要であるとの認識を共有した。	・今後も密に関係自治会と連携して事業運営を行うことにより、事業運営に自治会が積極的に関わることで、地域活動の活性化を図る必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	・残る冠水箇所解消によるさらなる生活環境の改善			・第二期計画(H24~H28)の推進による効果の早期発現
	・町道2-327号の拡幅歩道整備による交通安全のさらなる向上			・第二期計画(H24~H28)の推進による効果の早期発現
	・町道2-327号の地区特性に調和した道路の整備(児童館も含め福祉施設が多く立地するという地区特性)			・第二期計画(H24~H28)の推進による効果の早期発現

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画

むつみ
六美地区(清算報告)

とちぎ 栃木県 みぶまち 壬生町

都道府県名	栃木県	市町村名	壬生町	地区名	六美地区	面積	260	ha
-------	-----	------	-----	-----	------	----	-----	----

計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標
大目標：良好な地区発展のための基盤づくりと安心・安全なまちづくり
 目標1：生活道路の雨水排水路整備により、生活環境を改善し暮らしやすいまちづくりを推進する。
 目標2：アクセス道路の整備により、通過交通車両から歩行者の安全の確保を図り地域特性と調和のとれた道路整備を推進する。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況

- ・本地区は、戦後、陸軍教導飛行隊壬生飛行場として、元軍人を始め引揚者、疎開人を中心とした開拓団により切り開かれたという歴史を持つ地区である。
 東武宇都宮線に隣接し、くにや駅がある市街化区域と、線引き以前からの居住者の多い市街化調整区域(農振白地)により構成され、定住人口は約20人/haという、壬生町内においても、他の区域とは異なる地区形成をしている。
- ・地形的には平坦で、宇都宮都市圏の中でも好立地にあり、地区内には都市計画道路六美吾妻線が計画されている。また、H12年には北関東自動車道栃木～上三川間が開通し、壬生ICが付近に整備され、高速道路の全線開通時には壬生町において商工業の中心となる開発ポテンシャルを有した地区である。
- ・本地区は、商工業や住宅地としても大いに発展が期待される地区であることから、栃木県の北関東自動車道沿線開発構想の事業地に位置づけられ、付近にある獨協医科大学病院と連携した医療系産業の研究・開発施設、緑豊かな住宅、レクリエーション機能等を複合した都市形成を目指したヘルシータウン開発が予定されていたが、今般の経済状況等により事業が凍結となってしまった。
 その中で、経済性を考え、大規模開発事業にあわせた基盤整備を計画していたため、現在も十分な整備がされておらず、地区内各所で雨水排水問題や舗装の破損等の問題を抱え、住民生活に不安を抱いている。
- ・小学校を始め、町立の知的障害者自立支援施設(授産施設、こども発達支援センター)や児童館、民間デイサービスセンター、保育園が立地しており、町の福祉行政の一端を担っている地区である。特に児童館については、近年の社会情勢を受けて、学童保育や通学時の安全確保等に重要な役割を發揮している。
- ・これまでに地区内3自治会と連携を図り、勉強会を開催し、地区計画について意見交換を行いまちづくりに住民意見を取り入れるよう検討を続けている。
- ・壬生町の土地利用調整基本計画では、本地区の将来的土地利用基本方針は都市地域であり、開発の需要は高いと位置づけているため、今後の町発展では中心を成す地域である。
- ・地区内にある町営住宅が老朽のため解体され、長期に渡りその後の土地利用方針が定まらなかったが、高齢者向け住宅整備の可能性を検討し、本地区形成との調整を図っている。

課題
本地区での生活に安全と安心そしてゆとりを確保し地区再生をするためには早急な生活環境の改善が必須事項である

- ・地形的条件により、本地区では雨水が地区外に排出されず、地区内低地の道路に集まるため集中豪雨の際には道路冠水のおそれがある。梅雨の長雨や台風時期、本県特有の雷雨の際には消防団や町職員が警戒にあたり床下浸水に備え土のう積みや見回り強化等の対策をしている状況であり、広範囲の道路側溝や排出先の整備が必要である。
- ・幅員が狭小な町道にもかかわらず、隣接市とのアクセス道路が地区内にあり、特に交通量の多い朝夕の通過車両から歩行者を守る安全対策が必要である。
- ・福祉施設が多数立地しているため、これらの施設と調和のとれた地区整備が求められる。
- ・将来に向けた住民自治を実現するための土台作りが求められている。

将来ビジョン(中長期)

地域に活力があり、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり

- ・地区の課題が解消し、多くの住民が満足する生活環境が整い住みやすい地域となっている。
- ・既存福祉施設と調和のとれた周辺環境整備が整い魅力ある地区形成がなされている。
- ・住民ひとりひとりが地域の主役として活躍し、活力に満ちた地域が形成されている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
道路冠水面積	m2	冠水している道路の面積	49400	18	23300	23
交通安全対策満足度	%	交通安全対策に満足している人の割合	35	18	60	23
児童館利用者数	人	一年間に児童館を利用した人数	16000	17	17600	23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(基盤整備による安心、安全の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通過交通車両及び歩行者等の安全対策として幹線道路の拡幅・歩道整備・道路排水施設整備(2路線L=1750m W=10m)。 ・集中豪雨時の水害対策として道路排水施設整備(L=3420m)。 	<p>道路拡幅、歩道整備・道路排水施設整備(道路) 道路排水施設整備(道路)</p>
<p>整備方針2(地元力の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町営住宅集会場等の整備をし、地域活性化を援助。 ・地元3自治会において新たな組織を発足し地区の発展、活性化についての推進力を高める。 	<p>町営住宅集会場等整備(公営住宅等整備)、六美地区まちづくり推進事業(提案)</p>
<p>整備方針3(防犯・交通安全対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元を中心とした防犯対策を策定し、町の支援が必要な事項について助成。 	<p>防犯灯外交通安全施設の設置(提案)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生や父兄を中心とした地域のグループで安全対策活動を実施し、町は助言・支援等の協力をする。 	

